

第2節 長野県内における奈良平安時代の墳墓

次に、長野県内における奈良・平安時代の墳墓について若干の整理を行ない小結としたい。

長野県内の奈良・平安時代の墳墓を扱ったものには、すでにいくつもの優れた論稿がある。古くは藤森栄一の論稿があり、最近では遠藤藤麻呂が火葬墓について集成と整理を行い、桐原健、原明芳は土壙墓について考察を行っている。ここではまず、それらの成果に学びつつ、奈良・平安時代の長野県における墓制の大きな流れについて整理してみたい。

長野県内、ここでは特に中南信地域の奈良・平安時代の墳墓について管見したものについて整理してみた。(第2表)

奈良・平安時代の墳墓は、大きく土壙墓と火葬墓に分けられる。火葬墓には、藏骨器のない火葬墓、土器藏骨器の火葬墓、有機質の藏骨器の火葬墓などがある。また、土壙墓とされるものも、規模や形態が多様で、かつ骨片が残存することのほうが多い。多くの土坑のなかでどれが墓として機能していたかを確定することは困難な場合が多い。ここでは、僅かでも骨片が残っていたもの、等身大以上の土坑で副葬品と思われる遺物が出土したもの、棺の存在が想定できるようなもの等を根拠として土壙墓として把握した。

さて、これを整理したものが第10回である。

まず、伝統的埋葬形態である土壙墓についてみたい。土壙墓は、奈良時代から平安時代全般を通して存在する。時期の知れるものでは8世紀代2例、9世紀代7例、10世紀代7例、11世紀代13例を数える。長方形あるいは長楕円形で長軸規模2メートル以上のいわば定形的なものは、9世紀後半から例が急激に増え、10世紀・11世紀をとおして増加する。明らかに大棺墓と想定できるものも何例かある。また、副葬品は、遺構により若干の差はあるものの、杯、椀、皿などの食器類と、長頸壺あるいはミニチュアの壺などの組み合わせによる土器の副葬を基本とし、それに鏡、鉄鋸、紡錘車などの日常用具を加えるのが一定の形となり、この形式を整えるのは9世紀後半である。土壙墓の営まれる場所についてみれば、集落周辺部や、台地上に営まれることもあるが、各時期を通して集落内に置かれることが多く、集落からまったく隔絶した墓地に土壙墓を営むことはないようである。副葬品の土器量の多寡や内容の差異は、恐らく被葬者の階層をものがたるのであろう。

次に、火葬墓は火葬人骨を作った遺構をさすが、土器藏骨器と藏骨器を確かめられないものの2者がある。土器・藏骨器を伴わないものでは、素掘りの土坑と石組のものがあるが、石組のものについてはかならずしもその実態は明らかでない。素掘りの火葬墓は、規模や形状は様々で、火葬地が他にあり焼骨を集めて埋葬したと考えられるもの、火葬地を墓地としたものなど多様である。県内他地域の例をみればおそらく8世紀前半から出現し、平安時代を通して存在したと考えられるが土壙墓にくらべ少ない。

岡谷市大久保B遺跡の例は、石室内に八花鏡とともに火葬骨を埋納したものである。横穴式

石室の系譜上にあると思われる石室と、火葬墓の両形態を合せ持った墳墓として注目される。八花鏡の铸造時期等から8世紀代の所産と考えられている。集落とはかけ離れた位置に墓域を成している。

次に、火葬骨器についてみたい。確実に施骨を伴った葬骨器は、第2表にあげた7例であり、発掘調査により出土状態が記録されたものは、本例と吉田川遺跡の例のみである。このうち新井原例は、宮の上墳墓例同様に、灰釉陶器短頸壺を葬骨器として、須恵器と黒色土器Aの杯Aを蓋に転用していた。短頸壺は、宮の上墳墓のものより胴部最大幅が高い位置にある形態で、形式的にこれよりやや先行するものである。また、蓋に転用されていた須恵器と黒色土器Aの杯Aも横口内坡15号住段階から反目62号住段階に当たり、9世紀中葉の年代が与えられよう。岡谷市金山東遺跡の例は、灰釉陶器長頸壺、小瓶、碗とともに光ヶ丘1号窯式のものであり本遺跡例とほぼ同じ時期と考えられる。伴出した陸平永實の初鈐が796年であることとこれと矛盾しない。箕輪町の山麓部から出土した、須恵器の横瓶、短頸壺を葬骨器とした3例も、土器の形態から9世紀代の所産と考えられよう。吉田川西遺跡SM01の例は、須恵器の長頸壺ではあるが口頭部の大きな形状で類例は少ない。灰釉陶器広口瓶の形態に近いものだが、在地での須恵器生産の終了時期を考え合わせれば、10世紀前半から中葉までの時間幅のなかで考えられよう。以上のように、火葬骨器は、今のところ8世紀にさかのばる確実な資料は確認できず、主体は、9世紀で、なかでも9世紀後半の例が多い。10世紀後半以降の例は無い。埋葬地についてみれば、金山東遺跡、吉田川西遺跡の例が集落内に営まれたと考えられる他は、集落から離れた山麓や、古墳群内、斜面上などに営まれている。

奈良・平安時代の墳墓の墳墓としてこのほかに、古墳の造営と石室への埋納がある。伊那谷では中川村六万部古墳、豊丘村家の上古墳などで、確実に8世紀前半まで古墳への追葬が行われており、松本平では、松本市新村安塚古墳群や秋葉原古墳群等で8世紀前半まで、古墳の造営が続けられていたことが知られている。また、古墳の横穴式石室を利用した埋葬が、平安時代をとおして行われていたという指摘もある。

以上の状況をまとめれば、次のようにになろう。長野県において、8世紀段階では古墳への埋葬と、土壙墓、火葬墓が存在する。8世紀前半までは古墳の造営が行われ、横穴式石室への追葬も続けられる。土壙墓も存在するが、火葬墓が営まれるようになり、古墳からの過渡的な状況として大久保B遺跡墳墓例のように、石室に火葬骨を埋納する例もある。しかし、確認できる土壙墓や火葬墓は極めて少なく在地における家父長層の埋葬形態は、古墳が主体であったと考えられる。8世紀後半の段階の様相は明確にはとらえられないが、9世紀の墳墓は、火葬墓と土壙墓によって特徴付けられる。火葬墓は9世紀に入って土器葬骨器によるものが盛行し、集落から離れた古墳群内や山麓などに営まれることが多い。土壙墓は、9世紀後半に至って平面長方形で多くの副葬品を納める定形的な土壙墓の形態を整える。そしてこの土壙墓は集落内に営まれるのが通例となる。10、11世紀においては、定形的な土壙墓が主体で、火葬墓は少な

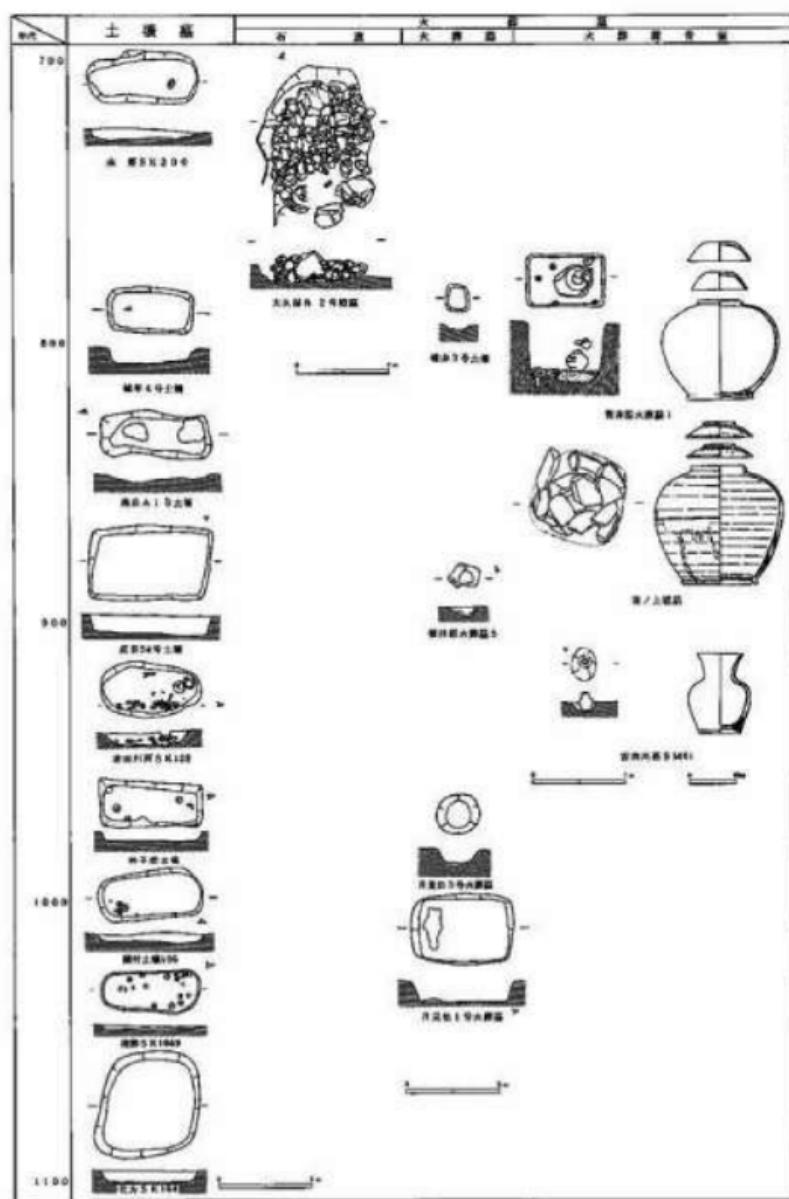
い。集落内に墳墓を設けることは前代とかわらない。

奈良・平安時代においては、おそらく一般民衆墓は簡単な土壙墓として営まれるか、遺体を荒地や川原などに遺棄したものと考えられるから、これまで述べてきた火葬墓あるいは副葬品を伴う土壙墓の被葬者は、それぞれの段階において集落の指導的な役割を担った富裕農民など有力者であったと考えられる。長野県における集落の有力者の墓は、8世紀前半までは古墳への埋葬、9世紀になって土器蔵骨器等による火葬墓が盛行するが9世紀後半をピークに急速に火葬墓は減少し、10世紀以降は多くの副葬品を伴う土壙墓が主体となるというが大きな流れとして指摘できようである。これは、時間的なずれはあるものの、黒崎直が指摘する奈良・平安時代の近畿地方の墳墓の状況と対応できようである。

ところで、奈良・平安時代の火葬墓の普及については、仏教思想の浸透によってもたらされた新しい墳墓形態の導入ととらえられることが多い。しかし、墓制としての火葬の定着をみせなかつた状況から見ると、被葬者の仏教への帰依というよりもむしろ中央貴族層の葬制の変化に反応した、集落の新しい指導者の指向という理解のほうが良いのではなかろうか。

9世紀後半と考えられる宮の上火葬墓の被葬者は、先に述べた律令村落崩壊のなかで村の指導者となった富豪層と考えられ、8世紀に中央で盛んに行われた地方にも普及していた火葬墓を自らの墳墓とした。しかしながら、この墳墓が営まれた9世紀後半には、すでに中央では火葬墓は下火になつており、この地方でもさらに新しい墓としての土壙墓が、新しい村の有力者たちの間に広がりつつあったのである。宮の上遺跡の火葬墓は、このような古代の墓制の変換期にあって、一方のあり方を典型的に示す重要な資料といえる。また、歴史的な重要性もさることながら、農作業中の偶然の発見でありながら、その後の措置によって墳墓の構造が記録され、さらに、藏骨器が優美な姿のまま完形で検出された例としても貴重な資料といえるのである。

本報告書を執筆するにあたり、斎藤幸正氏からは灰釉陶器について指導頂き、桐原 健氏、原 明芳氏からは、奈良・平安時代の墳墓について多くの教示を頂いた。多くの示唆を頂きながら考察にいかせなかつたのは筆者の力不足である。お詫びをし、記して感謝したい。本報告が、古代墓制研究の一つの資料に加えられれば幸いである。



第10図 伊那谷における古代の墳墓

引用参考文献

- 桐原 健 1976 「信濃における平安期土壙墓の性格」『信濃』28-1
1988 「奈良平安時代の信仰と葬制」『長野県史』考古資料編
- 黒崎 直 1980 「近畿における8・9世紀の墳墓」『研究論集文VI』奈良国立文化財研究所
- 小平 和夫 1990 「古代の集落」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4-松本市内その1-総論編』
1990 「上伊那における古代土器の縦断的考察」『上伊那郷土館研究紀要』第12集
1990 「上伊那における9世紀後半の集落」『上伊那教育』第81号
- 述那藤麻呂 1984 「日本各地の墳墓 中部・北陸」新版『仏教考古学講座』第7巻 墳墓
- 宮永 樹之 1993 「奈良平安時代の墓制」『神奈川県の考古学の問題点とその展望』神奈川県立埋蔵文化財センター
- 原 明芳 1989 「SK128をめぐる問題」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3-塩尻市内その2-吉田川西遺跡』
1988 「長野県の9世紀後半から12世紀の食膳具の様相」『長野県埋蔵文化財センター紀要』2
- 藤森 栄一 1941 「奈良時代の火葬骨壺」『古代文化』12-3

註

- (1) 土器埋骨器による火葬墓については、ここに上げたほかにいくつかの報告がある。今回は、埋骨器内に焼骨が確認できたものに限ってとりあげてある。
- (2) このなかには、有機質の埋骨器が含まれる可能性がある。
- (3) 中南信地方では確認できないが、8世紀前半にさかのぼる例として、素掘りの土坑に焼骨を置き、須恵器の杯、蓋を何枚も重ね覆った例が板城町豊燒堂遺跡群で確認されている。

第2表 長野県内(中・南信地域)における奈良・平安時代の墳墓

No.	遺跡名	所在地	遺跡名	遺構の形態	出土遺物	立地	周囲の地形との関係	時期	文献
1	新井原 鹿田市	火葬墓 1	火葬墓合群	灰陶馬頭埴輪(1), 黑色土器A柄(1), 瓦器群(1)		丘陵斜面	集落外古墳群内	9C中	1
2	金 山 東 関谷市		火葬墓合群	灰陶馬頭埴輪(1), 小瓶(1), 瓶(1), 陶子	平坦地	集落内	9C後	2	
3	宮 の 上 南箕輪村		火葬墓合群	灰陶馬頭埴輪(1), 瓶(1)		段丘斜面	集落外	9C後	本稿
4	知久 芝山 実樺町	火葬墓合群	灰陶馬頭埴輪(1)			山麓	集落外	9C	3
5	知久 芝山 実樺町		火葬墓合群	灰陶馬頭埴輪(1)		山麓	集落外	9C	3
6	東小河内 実樺町		火葬墓合群	灰陶馬頭埴輪(1)		段丘上	不明	9C	4
7	春日川西 鹿田市	S.M.61	火葬墓合群	灰陶馬頭埴輪(1)		平坦地	集落内	10C	5
8	新井原 鹿田市	土坂 16	火葬墓	荷包具		平地地	集落外古墳群内	9C	6
9	新井原 鹿田市	火葬墓 1	火葬墓	灰陶馬頭小瓶		丘陵斜面	集落外古墳群内	9C後	6
10	新井原 鹿田市	火葬墓 3	火葬墓			丘陵斜面	集落外古墳群内	9C後	6
11	新井原 鹿田市	火葬墓 4	火葬墓			丘陵斜面	集落外古墳群内	9C後	6
12	新井原 鹿田市	火葬墓 5	火葬墓	灰陶馬頭小瓶		丘陵斜面	集落外古墳群内	9C後	6
13	月見松 伊那市 大群墓 1	火葬墓				段丘面上	集落内	11C前	7
14	月見松 伊那市 大群墓 2	火葬墓				段丘面上	集落内	11C前	7
15	月見松 伊那市 大群墓 3	火葬墓				段丘面上	集落内	11C前	7
16	横山 開野町 3号土壙	火葬墓	瓦器群(1)			山麓斜面	集落外	9C前	12
17	金井原 高遠町	土 墓	黑色土器A柄(1), 瓦(1), 瓶(1), 土器印			段丘面上	不明	9C後	8
18	横山 平伊那市 4号土壙	土 墓	瓦器群(1)			山麓斜面	集落内	9C前	9
19	大安伊那市 1号土壙	土 墓	土器群(1)			山麓斜面	集落斜坡	10C前	9
20	南丘 A伊那市 1号土壙	土 墓	灰陶馬頭水瓶(1)			段丘地頂央	集落斜坡	9C中	9
21	仲子塚 南箕輪村	土 墓	土 墓	灰陶馬頭長頸瓶(1), 瓶(1), 土器群(2)		段丘先端	集落外	10C後	10
22	中道高崎町	M12号土壙	土 墓	灰陶馬頭(1)		平坦地	集落内	8C	11
23	城山 開野町	1号土壙	土 墓	土器群(1)		山麓斜面	集落内	10C前	12
24	城山 開野町 2号土壙	土 墓	土器群(2), 灰陶馬頭(2)			山麓斜面	集落内	10C前	12
25	御井野 新野市	土 墓 1	土 墓	土器群(2), 瓶(2), 小型A(1), 灰陶馬頭(2)		台地中央	集落外	10C後	13
26	御井野 新野市	1号土壙	土 墓	土器群(2), 瓶(4), ニューエジプト(1), 灰陶馬頭(2), 瓶(3), 灰陶馬頭(2), 瓷器群(1)		丘陵上	集落外古墳群内	11C前	14
27	御井野 新野市	2号土壙	土 墓	土器群(2), 瓶(3), 灰陶馬頭(2)		丘陵上	集落外古墳群内	11C前	14
28	御井野 新野市	3号土壙	土 墓	土器群(2), ニューエジプト(1)		丘陵上	集落外古墳群内	11C前	14
29	梅見新野市		土 墓	土器群(2), 黑色土器A柄(1)		台地斜面	不明	11C前	14
30	古田川西 鹿田市	S.K.128	土 墓	灰陶馬頭(2), 瓶(1), ニューエジプト(1), 瓷器群(1), 陶器, 瓦器,		平坦地	集落内	10C中	5
31	菖蒲沢集落 鹿田市	墓 塚	土 墓	灰陶馬頭(2), 瓶(1), ニューエジプト(1), 瓷器群(1)		山麓	集落外	11C中	15

No	遺跡名	所在地	遺物名	遺物の 形 態	出 土 遺 物	立 地	同時期の 遺跡 との関係	時 期	文 献	
32	石上	松本市	土 墓	土 墓	灰陶陶器輪(1), 黑色土器A柄(2) 直(2), 有	平地地	墓落内	9C後	16	
33	南	松本市	S K 260	土 墓	金環(1)	平地地	墓落内	8C後	17	
34	南	松本市	S K 176	土 墓	灰陶陶器輪(1), 肩部(4), 土器基輪(1) 黑色土器A柄(1), 黑色土器B長颈(1), 八棱鏡(1)	平地地	墓落内	11C中	17	
35	南	松本市	S K 193	土 墓	灰陶陶器輪(1), 土器基輪(1)	平地地	墓落内	11C中	17	
36	南	松本市	S K 349	土 墓	灰陶陶器輪(1), 土器基輪(1)	平地地	墓落内	11C中	17	
37	南	松本市	S K 514	土 墓	土器基輪(2), 檻(1), 鏊(1)	平地地	墓落内	11C後	17	
38	南	松本市	S K 1069	土 墓	灰陶陶器輪(1), 直(1), 肩部(1), 黑色土器A柄(1)	平地地	墓落内	11C中	17	
39	北	松本市	S K 43	土 墓	黑色土器A柄(4) 檻(2)	平地地	墓落内	9C後	18	
40	北	松本市	S K 50	土 墓	灰陶陶器輪(1), 土器基輪(2) 鏊(1)	平地地	墓落内	11C後	18	
41	北	松本市	S K 164	土 墓	土器基輪(2), 直(1), 檻(1)	平地地	墓落内	11C後	19	
42	中二子	松本市	S K 4	土 墓	灰陶陶器輪(1), 直(1), 土器基輪(2) 檻(1) ミニュミュア型(1)	平地地	墓落外	9C後	20	
43	殿 村	山形村	土 墓	106	土 墓	灰陶陶器輪(1), 土器基輪(4)	平地地	墓落附近	11C前	21
44	殿 村	山形村	土 墓	27	土 墓	灰陶陶器輪(1)	平地地	墓落内	9C後	21
45	反	駒ヶ根市	54号土 墓	土 墓	灰陶陶器輪(1), 直(1), 小底(1)	段丘面上	墓落内	9C後	22	
46	大久保 B	岡谷市	1号墳墓	石 砖		山麓	墓落外	8 C	23	
47	大久保-B	岡谷市	2号墳墓	石 砖	八花瓶(1)	山麓	墓落外	8 C	23	
48	大	朝 岡市	1号石垣墓	石 墓		山麓	墓落外		23	
49	勝 鹿 B	岡谷市	1号石垣墓	石 墓	須志郡住塚墓	山麓	墓落外	9C前	24	
50	越 山	松本市		合口墳墓	土器基輪(2)		平地	9C中	24	
51	富士電気敷地	松本市		合口墳墓	土器基輪(2)	平地地	不明	9C中	24	

一覧表引用文献

- | | |
|--------------|--|
| 1 座光寺村史編纂委員会 | 1993『座光寺村史』 |
| 2 藤森栄一 | 1930「陸平永宝を伴出せる鹿骨器」『考古学』1-2 |
| 3 上伊那誌編纂委員会 | 1965『上伊那誌』第2巻歴史編 |
| 4 箕輪町 | 19『箕輪町誌』 |
| 5 長野県教育委員会 | 1989『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3
-塩尻市内その2-吉田川西遺跡』 |
| 6 飯田市教育委員会 | 1986『恒川遺跡群』 |
| 7 長野県教育委員会 | 1974『昭和48年度長野県中央自動車道埋蔵文化財包蔵地発掘調査
報告書-伊那市内その2-』 |
| 8 高遠町 | 1983『高遠町誌』上巻歴史1 |
| 9 長野県教育委員会 | 1973『昭和47年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
-伊那市西春近-』 |
| 10 南箕輪村教育委員会 | 1969『神子柴遺跡緊急発掘調査報告書(第3次発掘調査)』 |
| 11 長野県教育委員会 | 1974『昭和48年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
-上伊那郡箕輪町-』 |
| 12 長野県教育委員会 | 1974『昭和48年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
-諏訪市内その1・その2-』 |
| 13 長野県教育委員会 | 1976『昭和50年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
-茅野市・原村その1・富士見町その2-』 |
| 14 茅野市 | 1986『茅野市史』上巻 |
| 15 塩尻市教育委員会 | 1991『菖蒲沢窓跡』 |
| 16 松本市教育委員会 | 1991『鶴町・石上・鎌田遺跡』 |
| 17 長野県教育委員会 | 1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書7
-松本市内その4-南栗遺跡』 |
| 18 長野県教育委員会 | 1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書8
-松本市内その5-北栗遺跡』 |
| 19 長野県教育委員会 | 1989『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書10
-松本市内その7-豊科町内-南中・北中・北方・上手木
戸遺跡』 |
| 20 長野県教育委員会 | 1989『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書5
-松本市内その2-神戸・上二子・中二子遺跡』 |
| 21 山形村教育委員会 | 1987『殿村遺跡』 |
| 22 駒ヶ根市教育委員会 | 1990『反日・遊光・殿村・小林遺跡』 |
| 23 長野県教育委員会 | 1987『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書1
-岡谷市内-』 |
| 24 桐原 健 | 1955『松本市筑摩出土の火葬骨董』『信濃』7-4 |